

需給安定対策に関する資料

平成 1 9 年 5 月 3 0 日

農 林 水 産 省

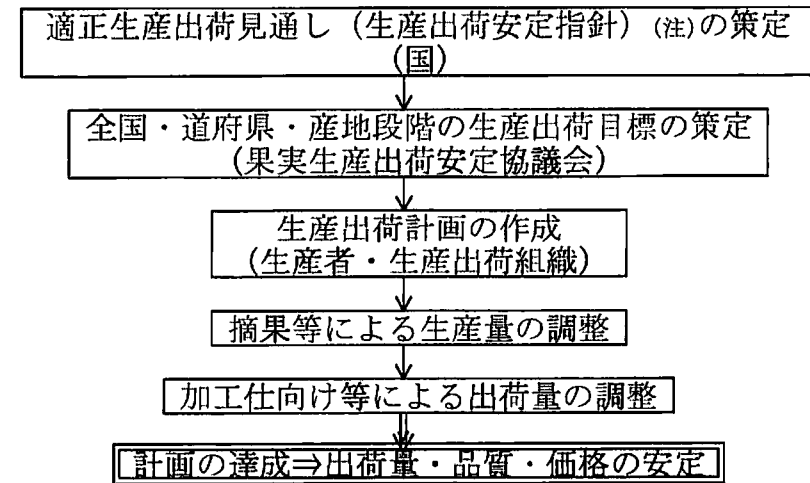
目 次

1	需給安定対策の概要	・ ・ ・ ・ ・	1
2	需給調整の取組状況	・ ・ ・ ・ ・	2
3	経営安定対策の実施状況	・ ・ ・ ・ ・	3
4	価格動向	・ ・ ・ ・ ・	4
5	19年産生育状況	・ ・ ・ ・ ・	6

1 需給安定対策の概要

- 国は、毎年、需給動向を踏まえ、食料・農業・農村政策審議会の意見を聴いて、適正生産出荷見通しを示すこととしている。
- その際、大幅な生産増加が見込まれる場合には、適正生産出荷見通しに代えて、うんしゅうみかんについては、果樹農業振興特別措置法に基づき、農林水産大臣が生産出荷安定指針（りんごについては生産出荷指導指針）を策定することとしている。
- 見通し（指針）の策定を受け、生産者団体等からなる全国、道府県、産地の各段階の果実生産出荷安定協議会等は、道府県別、産地別、生産者・生産出荷組織別の生産出荷目標を策定することとしている。
- 一方、生産者・生産出荷組織は、その目標に即し予定される生産出荷量及びそのための調整方法を盛り込んだ生産出荷計画を作成することとしている。
- 指針が策定された場合には、生産量の調整効果が高い全摘果等の特別摘果により、生産量の調整に最優先に取り組む、需給調整を強化することとしている。

○ 需給安定対策の流れ



（注）生産出荷安定指針は、予想生産量が全国の適正生産量の原則として10%以上上回る場合に策定。

○ うんしゅうみかんの特別摘果の内容

改植・高接	うんしゅうみかんからうんしゅうみかんの優良品種その他果実への改植又は高接
全摘果	園地、樹又は半樹ごとに全く結実させないようにさせるためのせん定又は摘果
間伐・大枝切り	園地ごとに一定面積以上の樹を伐採する間伐又は樹の主枝を一定割合以上切除する大枝切り

2 需給調整の取組状況

(1) 17年産

- うんしゅうみかん及びりんごについては、大幅な生産増加が見込まれないことから、それぞれ適正生産出荷見通しを策定した。
- うんしゅうみかんは、生産者団体を中心として、生産出荷目標等に即した高品質果実の生産出荷等、計画的な生産出荷に取り組んだことにより、生産量は、113万トン（適正生産量の102%）と計画に近い水準となった。
- りんごは、豪雪による枝折れや消雪の遅れから生育が遅れたこと、高品質果実の生産のための仕上げ摘果や樹上選果が適切に行われたことにより、生産量は、適正生産量87万トンを下回る81万9千トン（適正生産量の94%）となった。

(2) 18年産

- うんしゅうみかん及びりんごについては、大幅な生産増加が見込まれないことから、それぞれ適正生産出荷見通しを策定した。
- うんしゅうみかんは、梅雨明けが平年より大幅に遅れ、全国的に日照不足で推移したため、生理落果が多かったこと、9月以降の降雨量が少なく小玉傾向であったこと、一部産地で台風による被害があったこと等から、生産量は、84万2千トン（適正生産量の79%）と計画を大幅に下回った。
- りんごは、梅雨明けが平年より遅れ、全国的に日照不足で推移したため、若干小玉傾向となったこと、高品質果実の生産のための仕上げ摘果や樹上選果が適切に行われたことにより、生産量は、適正生産量86万トンを下回る83万2千トン（適正生産量の97%）となった。

- 平成17年産うんしゅうみかん及びりんごの生産量・出荷量

	うんしゅうみかん		りんご	
	生産量	出荷量	生産量	出荷量
生産出荷実績(a)	113 万t	101 万t	81.9万t	72.4万t
適正生産出荷量(b)	111 万t	98.5万t	87 万t	78 万t
比率(a/b×100)	102 %	102 %	94 %	93 %

資料：平成17年産みかんの収穫量及び出荷量 等

- 平成18年産うんしゅうみかん及びりんごの生産量・出荷量

	うんしゅうみかん		りんご	
	生産量	出荷量	生産量	出荷量
生産出荷実績(a)	84.2万t	74.3万t	83.2万t	74 万t
適正生産出荷量(b)	107 万t	95 万t	86 万t	77 万t
比率(a/b×100)	79 %	78 %	97 %	96 %

資料：平成18年産みかんの収穫量及び出荷量 等

3 経営安定対策の実施状況

(1) 13年産～17年産

○ うんしゅうみかんについては、制度創設以来、価格の低迷等により毎年補てん金の交付が行われており、累計で225億円の交付が行われている。なお、補てん金の交付額は減少傾向にある。

○ りんごについては、15年産以降価格が安定的に推移しており、補てん金は交付されていなかったが、17年産に1県の交付があり、累計で72億円の交付が行われている。

(2) 18年産

うんしゅうみかんについては、対策加入県すべてで卸売価格が補てん基準価格を上回ったことから補てんは行われなかった。

また、りんごについては、対策加入県すべてで卸売価格が補てん基準価格を上回って推移していることから、補てんは行われない見込みである。

※対象出荷期間

みかん：3月まで

りんご：県により1月まで～5月まで

○ 経営安定対策の補てん金交付額の推移

		うんしゅうみかん	りんご	合 計
13年産	補てん金交付額（億円）	118	33	151
	対策加入県	19	5	24
	補てん対象県	19	2	21
14年産	補てん金交付額（億円）	34	39	73
	対策加入県	19	5	24
	補てん対象県	12	5	17
15年産	補てん金交付額（億円）	36	—	36
	対策加入県	18	6	24
	補てん対象県	12	—	12
16年産	補てん金交付額（億円）	0.3	—	0.3
	対策加入県	18	6	24
	補てん対象県	2	—	2
17年産	補てん金交付額（億円）	37	0.02	37
	対策加入県	17	6	23
	補てん対象県	17	1	18
18年産	補てん金交付額（億円）	—	—	—
	対策加入県	17	6	23
	補てん対象県	—	—	—
累計	補てん金交付額（億円）	225	72	296

資料：農林水産省果樹花き課調べ

4 価格動向

(1) 17年産

① うんしゅうみかん

○ うんしゅうみかんの卸売数量は、6月以降の高温・少雨等により、極早生みかんが全体的に小玉になったことから、10月までの卸売数量は前年を下回って推移したが、その後、早生みかんの生育が順調で卸売数量が回復傾向となり、卸売数量は台風被害により数量の少なかった前年の107%となった。

○ 一方、卸売価格は、極早生みかんが小玉傾向で主産地では着色不良、低糖度果実の発生により価格が低水準で推移し、早生みかんも同様の傾向となったことから、卸売価格は価格が堅調だった前年の78%となった。

② りんご

○ りんごの卸売数量は、融雪の遅れ、春先の低温による開花時期の遅れから収穫時期が遅れ、さらに、6月以降の高温・少雨等により果実が小玉になったが、卸売数量は台風被害により数量の少なかった前年の104%となった。

○ 卸売価格については、8月及び9月は卸売数量が前年を下回ったことから前年を上回って推移したが、10月以降は果実全般の安値傾向や夏果実との競合等により前年を下回って推移し、卸売価格は台風被害により価格が堅調だった前年の85%となった。

○ 露地みかんの卸売数量及び卸売価格の推移（京浜市場）

(単位：トン、円/kg、%)

		9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
卸売数量	17年産	4,127	25,671	35,836	53,220	22,918	16,808	7,319	165,899
	16年産	4,396	26,542	33,104	49,753	21,792	13,723	5,108	154,418
	対前年比	94	97	108	107	105	122	143	107
卸売価格	17年産	190	142	149	165	175	190	180	163
	16年産	202	171	203	213	224	227	260	208
	対前年比	94	83	73	77	78	84	69	78

資料：日園連調べ

○ りんごの卸売数量と卸売価格の推移（京浜市場）

(単位：トン、円/kg、%)

		8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	累計
卸売数量	17年産	2,670	7,790	10,227	11,339	9,290	7,716	8,206	8,197	6,807	72,242
	16年産	3,376	8,115	10,250	10,984	8,004	7,047	7,282	7,835	6,401	69,294
	対前年比	79	96	100	103	116	109	113	105	106	104
卸売価格	17年産	360	260	249	243	225	223	228	237	259	245
	16年産	295	256	308	288	302	279	270	279	306	287
	対前年比	122	102	81	84	75	80	84	85	85	85

資料：日園連調べ

(1) 18年産

① うんしゅうみかん

○ うんしゅうみかんの卸売数量は、うら年であったことに
加え、梅雨明けが大幅に遅れ全国的な日照不足により生理
落果が多かったこと、9月以降の降雨量が少なく小玉傾向
であったことから、3月までの卸売数量は大幅に減少し、
前年の71%となった。

○ 一方、卸売価格は、生産量が当初の予想を大幅に下回っ
ており出荷量が少なかったこと、9月以降の小雨により小
玉傾向となったものの、早生以降平年に比べて糖度が高く
品質が良かったこと等から、価格は堅調に推移し、3月ま
での卸売価格は前年の173%となった。

② りんご

○ りんごの卸売数量は、梅雨明けの遅れ、全国的な日照不
足から若干小玉傾向となったものの、4月までの卸売数量
は前年の106%となっている。

○ 卸売価格については、小玉傾向であるものの品質が良い
こと、果実全体の出荷量が少ないこと等から、価格は前年
を若干上回って推移しており 4月までの卸売価格は前年の
109%となっている。

○ 露地みかんの卸売数量及び卸売価格の推移（京浜市場）

(単位：トン、円/kg、%)

		9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
卸売数量	18年産	3,419	19,283	25,723	39,198	17,940	10,145	2,446	118,154
	17年産	4,127	25,671	35,836	53,220	22,918	16,808	7,319	165,899
	対前年比	83	75	72	74	78	60	33	71
卸売価格	18年産	241	223	284	289	307	301	394	282
	17年産	190	142	149	165	175	190	180	163
	対前年比	127	157	191	175	175	158	219	173

資料：日園連調べ

○ りんごの卸売数量と卸売価格の推移（京浜市場）

(単位：トン、円/kg、%)

		8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	累計
卸売数量	18年産	2,641	8,505	12,036	12,496	8,834	7,396	8,075	9,455	6,794	76,232
	17年産	2,670	7,790	10,227	11,339	9,290	7,716	8,206	8,197	6,807	72,242
	対前年比	99	109	118	110	95	96	98	115	100	106
卸売価格	18年産	385	267	261	261	257	255	248	260	294	266
	17年産	360	260	249	243	225	223	228	237	259	245
	対前年比	107	103	105	107	114	114	109	110	114	109

資料：日園連調べ

5 19年産生育状況

(1) うんしゅうみかん

暖冬により気温が平年より高く推移したため、発芽期はやや早いから早くなっており、開花期は、3月以降低温で推移したため、平年並みからやや早くなっている。また、おもて年であることから着花量は総じて多いと見込まれている。

○うんしゅうみかん主産県の生育状況（5月1日現在 平年比）

県 名	発芽期	開花期	着花量
静岡県	早い	やや早い	多い
和歌山県	やや早い	平年並み	多い
愛媛県	やや早い	平年並み	多い
福岡県	早い	やや早い	やや多い
佐賀県	早い	やや早い	多い
長崎県	やや早い	早い	平年並み
熊本県	早い	やや早い	多い
宮崎県	やや早い	平年並み	多い

(2) りんご

暖冬・少雪傾向であったものの、3月以降低温傾向で推移したため、発芽期はほぼ平年並み、開花期は平年並みからやや遅くなっている。着花量は、ほぼ平年並みと見込まれている。

○りんご（ふじ）主産県の生育状況（5月1日現在 平年比）

県 名	発芽期	開花期	着花量
青森県	平年並み	やや遅い	平年並み
岩手県	平年並み	やや遅い	平年並み
秋田県	平年並み	やや遅い	平年並み ～やや少ない
山形県	平年並み	平年並み	やや少ない
福島県	やや早い	平年並み	多い
長野県	やや早い	平年並み	平年並み